



平成19年 3月22日  
日本原子力発電株式会社

## 東海第二発電所

### タービン駆動原子炉給水ポンプ（A）の補修に伴う計画停止について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット）は、平成19年2月12日から第22回定期検査の最終段階である調整運転を実施しておりましたが、2月21日14時30分頃にタービン駆動原子炉給水ポンプ\*<sup>1</sup>軸封部よりシール水が漏れていることを確認しました。このため、16時から電気出力を90万キロワットまで低下させる操作を行い、予備の電動機駆動原子炉給水ポンプに切り替えた後、電気出力を元の状態に戻すとともに当該部の点検を実施しました。

なお、この事象による外部への放射能の影響はありません。 （2月21日お知らせ済み）

点検の結果、漏えい箇所は、ケーシングカバー\*<sup>2</sup>とシール水出口配管\*<sup>3</sup>の取付け部溶接箇所のひびであることが確認されました。点検履歴及び割れ部の調査結果から、平成4年の当該配管の取替えに伴う溶接で融合不良\*<sup>4</sup>が生じ、また、運転中の振動及び当該ポンプの起動・停止時の熱変位により溶接不良部にひびが発生、進展し、貫通したものと推定されました。

このため、発電所での補修ではなく、工場へ搬出し補修を行なうこととしましたので、3月24日から原子炉の停止操作を行いますのでお知らせします。

なお、作業には3週間程度を要する見込みです。

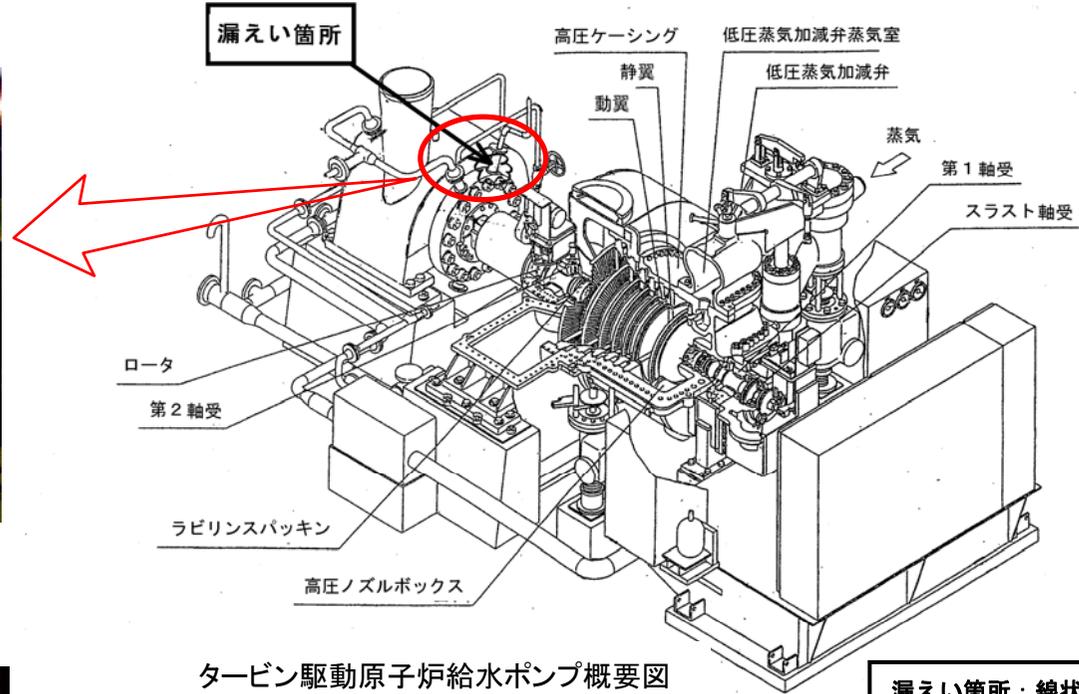
- \* 1 冷却水を原子炉内に供給するポンプで、炉内の蒸気の一部を駆動源とする。
- \* 2 給水ポンプの軸封部の容器。
- \* 3 給水ポンプの軸封部に供給するシール水の戻り配管。
- \* 4 金属と溶接材との溶け込みが不十分な状態。

添付図 タービン駆動原子炉給水ポンプ（A）軸封部シール水出口配管溶接部構造

以 上

# タービン駆動原子炉給水ポンプ（A）軸封部シール水出口配管溶接部構造

シール水漏えい部



タービン駆動原子炉給水ポンプ概要図

シール水出口配管

漏えい箇所



ケーシングカバー（端部）

